

●第2回「新たな学校づくり・社会教育施設づくり検討委員会」が開催されました！

第2回検討委員会では、上野委員長より学校建築の変遷や新しい時代に求められる学校の方向性に関する基調講演を、また同委員会の後半では、学校施設の共用化・複合化について意見交換をいたしました。

【第2回検討委員会に関連する論点】

2) 新しい学習形態に対応した学習環境

ICT、教室空間、収納、オープンスペース など

8) 学校と地域をつなぐ、現実的かつ効果的な複合化・共用化

特別教室の共用、セキュリティ など

※各回の検討は「10の論点」を基本として進めております。第1回資料をご参照ください

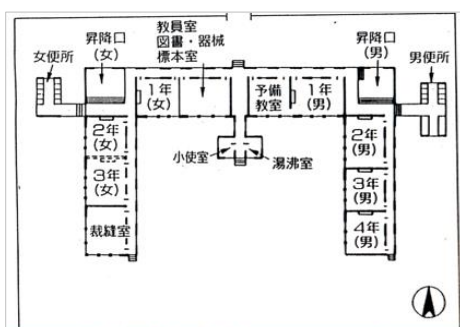


検討委員会の様子

●基調講演「学校建築：来し方行く末～子どもたちのための学校」のあらまし

上野委員長によると、明治時代に原型がつけられた学校建築のあり方（スライド/左）が、現在も多くの学校に引き継がれているそうです。その後、教育改革や学校改革の過程において、1970年代後半より、教室と廊下、多目的に利用できるオープンスペースが一体的にレイアウトされた学校（スライド/中）がつけられはじめたと言います。従来の一斉授業とは異なるスタイルの学びにも取り組みやすく、現在求められる一人ひとりの特性に応じた多様な学びにも適した空間とのご指摘いただきました。

さらに、学校内に学習スペース以外の様々な施設が設置された事例（スライド/右）も紹介いただき、地域の方々にも気軽に立ち寄っていただける素敵な場所にしていくことが大事だということを委員に問いかけられました。

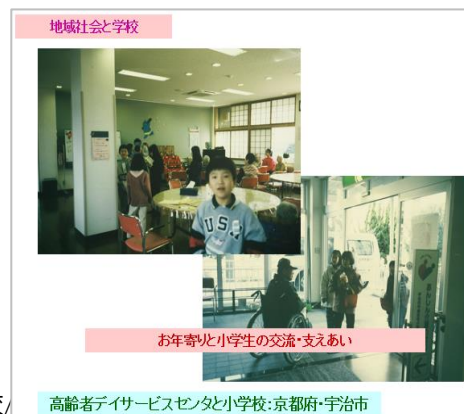


学校建築の原型：1895年

【出典】第2回検討委員会資料より（「学校建築の原型」）



日本の学校改革と小学校建築

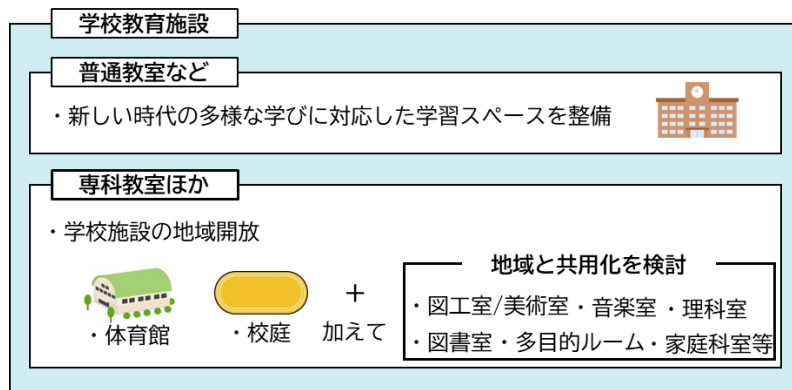


高齢者サービスセンターと小学校：京都府・宇治市

●学校施設の共用化とは？

学校施設の共用化とは、学校の教室や施設全般を地域の方々と共同で利用することです。第1回検討委員会においては特に「専科教室等」において共用化の観点をもつことで、学校施設の多様な機能が地域として利活用できることへの期待感が委員より示されました。さらに地域や多世代との交流、人材活用などの利点が想定されること、しかし一方では児童生徒の安全性やプライバシーの確保に懸念があることも。

今後、学校施設の共用化に関するメリット・デメリットなどについて意見交換を重ね、共用化（新たな地域開放のあり方）の実現に向けた手法についてもあわせて検討してまいります。



【出典】第2回検討委員会資料より（右：「令和4年度第2回自治体等 FM 連絡会議資料/神奈川県大竹和弘氏」を一部編集）

●第2回検討委員会における意見交換の様子

委員からの主なご意見

老人ホームなどが校舎の中にあると、お年寄りの交流がスムーズになり、発展的な学習ができるのではないかな。

学校開放の際に、スポーツだけでなく伝統文化やプログラミングなどの文化教養を教えられる地域指導員を招くことができるとよい。

先生の負担をこれ以上増やさないために、地域の力を活用できるとよい。

利用頻度が低い教室を地域の方々に使っていただくと、無駄がなくなるのではないかな。

大人・子ども両方にとって使いやすい学校施設とはどういうものなのか、考えたい。

子どもがワクワクするような空間とバリアフリーの設計が共存できるとよい。

セキュリティやバリアフリーについても検討する必要がある。

●市民の皆様からご意見を募集しています。

日野市教育委員会では、新たな学校づくり、社会教育施設づくりに対するご意見を市民の皆様より引き続き募集しています。学校施設の機能や利用についてのお考えをぜひお寄せください。

ご意見は、URL 又は二次元コードより、アンケート回答フォーム（ロゴフォーム）にてお寄せください。
URL: <https://logoform.jp/form/Z9UK/376471>

二次元コード



【これまでに寄せられた市民の皆様からの主なご意見】

多様な子どもたちが同じ空間で教育を受けられること（多様性・合理的配慮）/学びの空間として用途・自由度の高い設備が整えられていること（オープンスペース）/当たり前の環境整備を少しでも早く実現すること（老朽化対策）/教室が狭い、あの狭い空間にあの人数の子どもたちでは密度が高すぎ（学習空間）等